

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第232集

東五里田遺跡Ⅳ

長野県佐久市野沢東五里田遺跡Ⅳ発掘調査報告書

2015.2

佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書は有限会社田園不動産による宅地造成工事に伴う平成26年度東五里田遺跡Ⅳの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 有限会社 田園不動産 代表取締役 田中明
- 3 調査主体者 佐久市中込 3056 佐久市教育委員会 教育長
- 4 遺跡名 東五里田遺跡Ⅳ (NHGⅣ)
- 5 調査担当者 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

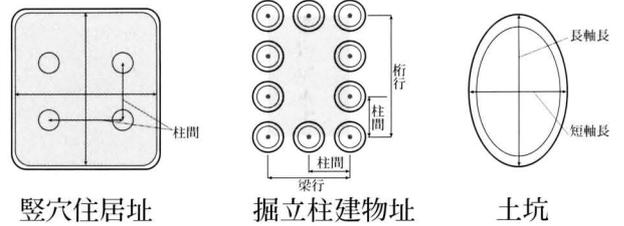
凡 例

- 1 遺構の略称は以下のとおりである。
H－竪穴住居址 D－土坑 F－掘立柱建物址 P－ピット
- 2 スクリーントーンの表示及び遺構の計測は以下のとおりである。



- 3 挿図の縮尺は以下のとおりである。
遺構－竪穴住居址・土坑・掘立柱建物址・ピット 1/80
遺物－土器・石器 1/4

- 4 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 5 遺構の標高は、水糸高を標高とした。
- 6 調査グリッドは世界測地系を利用した4×4mである。
- 7 遺物表中の [] は推定値、〈 〉 は残存値を表す。



目 次

例言・凡例・目次	
第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
第1節 発掘調査の経緯	1
1 開発事業と保護協議	1
2 文化財保護手続き	1
3 調査体制	1
第2節 発掘作業の経過	1
1 発掘作業	1
2 整理作業	2
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3節 発見された遺構と遺物	5
第4節 基本層序	5
第Ⅲ章 遺構と遺物	7
第1節 竪穴住居址 (H)	7
第2節 土坑 (D)	9
第3節 掘立柱建物址 (F)	10
第4節 ピット (P)	11

写真図版



東五里田遺跡Ⅳ調査区位置図 (1 : 50,000)

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 発掘調査の経緯

1. 開発事業と保護協議

東五里田遺跡は佐久市野沢に所在し、佐久市内を貫流する千曲川の左岸に形成された沖積微高地上に展開する弥生時代から中世に至る複合遺跡で、標高は 675.5m 内外を測る。周辺では中学校建て替え・宅地造成・道路改良等の事業に伴い多くの発掘調査が実施されている。開発地域近隣では、北側で学校建て替えに伴う東五里田遺跡Ⅰ・Ⅱ及び宅地造成工事に伴う東五里田遺跡Ⅲの調査が行われ、東五里田遺跡Ⅰからは弥生時代前期及び奈良時代の住居址等が、東五里田遺跡Ⅱ・Ⅲからは奈良時代の住居址等が調査されている。

今回、有限会社田園不動産が計画した宅地造成工事予定地域一帯が東五里田遺跡に含まれることから進入道路部の試掘・確認調査を実施する運びとなった。平成 26 年 9 月に試掘・確認調査を実施した結果、竪穴住居址・土坑等の遺構が発見されたため、文化財保護協議を実施し、埋蔵文化財委託契約締結後、佐久市教育委員会が主体となり、進入道路部分の発掘調査を行った。なお、宅地面は盛土による工事であることから、今回の開発では調査対象外とした。

2. 文化財保護手続き

平成 26 年 8 月 11 日 土木工事のための埋蔵文化財発掘調査の届出 (93 条書類)
平成 26 年 8 月 18 日 周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について (通知)
平成 26 年 9 月 18 日 試掘調査等終了報告 (県・開発主体者)
平成 26 年 10 月 1 日 発掘調査終了報告
平成 26 年 10 月 1 日 埋蔵物発見届
平成 26 年 10 月 16 日 文化財の認定及び県帰属について (通知)

3. 調査体制

調査受託者

佐久市教育委員会 教育長 土屋盛夫 (～平成 26 年 5 月)
榎澤晴樹 (平成 26 年 5 月～)

事務局

社会教育部長 山浦俊彦
文化財課長 三石宗一
文化財調査係長 比田井清美
文化財調査係 小林真寿 富沢一明 上原学 神津一明 久保浩一郎
嘱託職員 林幸彦
調査主任 森泉かよ子
調査担当者 上原学
調査員 赤羽根篤 赤羽根充江 浅沼勝男 飯森成英 岩崎重子 岩松茂年 小幡弘子 木内修一
小島真 小林節子 中澤登 羽毛田利明 比田井久美子 武者幸彦 横尾敏雄 渡辺学

第 2 節 発掘作業の経過

1. 発掘作業

(1) 名称と記号

事業予定地は、佐久市野沢に所在し、佐久市遺跡詳細分布図により、東五里田遺跡に含まれる。遺跡内では、学校建替・宅地造成等に伴い、東五里田遺跡、東五里田遺跡Ⅱ、東五里田遺跡Ⅲの調査が実施されている。本事業に伴う発掘調査の遺跡名は、東五里田遺跡内で 3 箇所調査が実施されていることから「東五里田遺跡Ⅳ」と名付け、記号は、Ⅰ～Ⅲで使用した NHG から、NHGⅣとした。

(2) 遺構の名称と記号

H－竪穴住居址（地面を円形や方形に掘りくぼめ、柱穴・炉・カマド等を備えた住居と考えられるもの。佐久市では明らかに平地住居と考えられる遺構は発見されていない。）

F－掘立柱建物址（円形や方形に掘りくぼめ、柱を建てたと考えられるピットが規則正しく配列され、倉庫等の建物として使用されたと考えられるもの）

D－土坑（地面を円形や方形に掘りくぼめたもので、陥穴・貯蔵穴・ゴミ穴等と考えられるもの。ピット・竪穴状遺構と区別するため、径または長辺が1m以上3m未満とした。）

P－ピット（地面を円形や方形に掘りくぼめ、柱状のものを建てたと思われるもの。土抗と区別するため、径が1m未満とした。）

(3) 調査区の設定

調査区上に国家座標（世界測地系）に基づく40×40mの大グリッドを設定し、これを更に4×4mの小グリッドに分割した交点に木製の遺構測量用基準杭を打設した（頭部に釘設置）。グリッド名は、東から西方向にひらがな（あ～お）、北から南方向に数字（1～10）を使用し、グリッド名あー1グリッドのように設定した。

(4) 調査の方法

調査は、試掘確認調査後の状態からトレンチ周辺等必要箇所を手掘りにより遺構確認面まで表土を除去し拡張した。その後、人員による遺構の検出作業を行い、開発事業者による基準杭の打設を行った。検出した遺構は命名後、調査を開始した。住居址の掘り下げは、通常4区画（Ⅰ～Ⅳ区）に分割し、対角のⅠ・Ⅲ区にL字状のサブトレンチを設定し、床面まで掘り下げ分層する。分層後Ⅰ・Ⅲ区を層ごとに床面まで掘り下げた後、残りのⅡ・Ⅳ区を掘り下げ完掘となるが、今回は調査区域外にまたがる遺構が主体で、調査範囲も狭小であることから、1区画又は2区画としてサブトレンチを掘り下げ、分層後に掘り下げを行った。床面検出後は、壁溝・ピット等を掘り下げた。写真撮影、平面図作成を実施した後、住居址掘方の写真撮影及び図面の追加作成を行った。カマドが設置されている住居址は、住居址掘方掘り下げ前にカマド解体調査を行い、同時に断面図等の図面を作成するが今回カマドは、確認されなかった。遺物は、区画ごとに取り上げた。遺跡・遺構の全体写真は各遺構の調査が終了した時点で撮影した。遺構の平面図作成は調査区内に設定した基準杭を利用した遣り方測量により、調査担当・調査員が実施し、縮尺は1:20を基本とした。写真撮影は担当者が行い、デジタル一眼レフカメラと35mmフィルム一眼カメラによるカラーリバーサルで行った。

(5) 日誌

平成26年9月16・17日 埋蔵文化財試掘・確認調査。

9月17日～ 文化財保護協議。進入道路部分にかかる遺構の発掘調査を実施し、宅地面については埋土による造成であることから調査対象外とした。

9月22日 埋蔵文化財委託契約。

9月22,23日 調査準備・機材搬入・事業主体者側による基準杭設定作業。

9月24日 調査員による発掘調査開始。遺構検出作業。H1・2・3、F1掘り下げ作業。
住居址3軒、掘立柱建物址1棟、土坑、ピット発見。

9月25日 H1・2・3掘り下げ。図面作成。写真撮影。F1掘り下げ。図面作成。写真撮影。
D1掘り下げ。

9月26日 H1・2・3図面作成。掘方掘り下げ。写真撮影。F1図面作成。D1・2・3掘り下げ。
ピット掘り下げ。

9月29日 調査区清掃作業。全体写真撮影。D1・2・3・ピット図面作成。
機材撤収・整理作業。

2. 整理作業

(1) 整理の内容

整理作業は現場作業終了後に図面整理・図面修正、写真整理、遺構・遺物図版作成、遺物洗浄、遺物注記、遺物接合・補修修復、遺物実測、遺物写真撮影、割付本作成、原稿執筆、印刷製本、遺物・図面収納作業を実施した。遺物実測は調査員が1/1で鉛筆実測、報告書掲載時の縮尺を基本的に1/4とした。

遺構図版は、1/40で鉛筆による仮割付を行った後、トレースを実施し、報告書掲載時の縮尺を基本的に1/80とした。

報告書の原稿はマイクロソフト社製「ワード」、表原稿はマイクロソフト社製「エクセル」を使用し、遺構・遺物写真のデータ形式はニコン「NEFデータ」を使用した。

(2) 資料の収納

作業が終了した図面は、原図・印刷用図版一式をファイルに収納、写真はアルバムに収納したネガ・データと共に文化財課耐火収納庫に保管した。遺物は、報告書掲載図版と照らし合わせ、遺構ごとにコンテナへ入れた後、報告書使用遺物と未使用遺物を分けて文化財課遺物保管施設に収納した。

(3) 日誌

平成26年 9月29日～図面整理・図面修正、写真整理、遺構・遺物図版作成、遺物洗浄、遺物注記、遺物接合・補修修復、遺物実測作業、遺物写真撮影、割付本作成、原稿執筆。

11月13日 佐久市埋蔵文化財調査報告書第232集 東五里田遺跡Ⅳ入稿。

11月13日～印刷製本、遺物・図面収納。

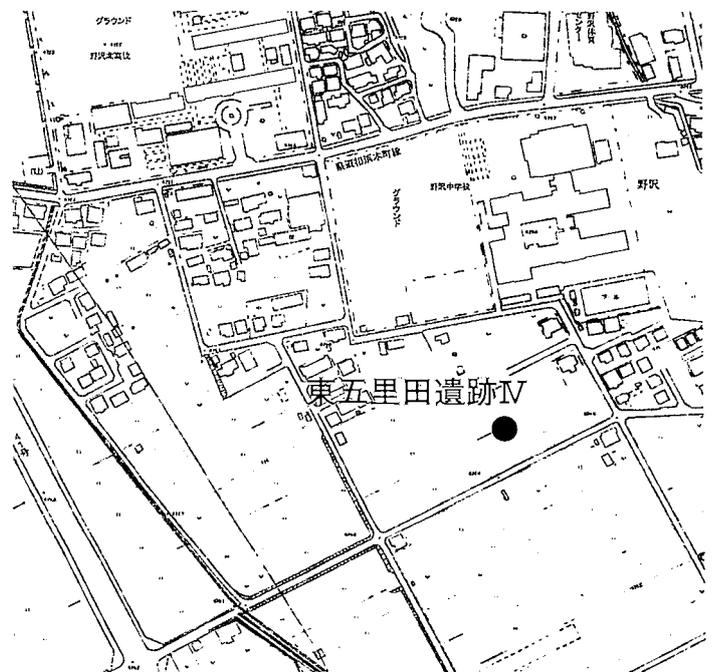
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第Ⅰ節 地理的環境

佐久地域は、周辺を山地台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には雄大な浅間山、南には蓼科山が存在する。東には群馬県との境を成す北関東山脈の北端が延び、西は御牧原・八重原といった小高い台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久地域における水系の代表は、南方の川上谷に源を発す千曲川であり、北流しながら支流を集めつつ水量を増して佐久平に入る。その後野沢付近から流れを北西に変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間の麓に源を発す湯川、関東山地からの支流を集めた滑津川といった河川と合流し、蛇行しながら上田、長野方面に貫流する。この山地に囲まれ、水にも恵まれた盆地状の佐久平は、地質学的に見ると大きく二分することができ、志賀川と滑津川が合流し、さらに千曲川と川筋を一つにする東西線を境として、河川の北側段丘上と南側では20m前後の比高差が認められる。この北部地域は北方の浅間山麓部の緩やかな台地で、浅間山の噴出物である火砕流軽石流と降下火山灰が厚く堆積している。この堆積物は雨水による浸食に弱く長い年月の間に深く削り取られ、浅間山の麓から放射状に幾筋もの浸食谷（田切り地形）を形成している。

これに対し南部地域は千曲川の氾濫源沖積地と滑津川の谷口扇状地等で、河床礫層と沖積粘土層地帯が主となり地下水位も高く、地盤の安定した土地である。このため南部一帯は広く水田として利用されていた。

今回調査を実施した東五里田遺跡Ⅳは佐久市南部地域の千曲川等河川によって形成された標高675.5m内外を測る氾濫源沖積地上に位置する。



東五里田遺跡Ⅳ位置図 (1:6,000)

第Ⅱ節 歴史的環境

旧石器時代

佐久平周辺の丘陵地帯において遺跡が所在する。南部地域では、南方の蓼科山麓に立地する立科F遺跡において始良Tn火山灰(AT)降灰以前の石器群が発見され、検出層位から31,200±900年前の年代が与えられている。また、北西4.5kmに所在する榛名平遺跡からは、この時期の可能性のある石器が出土している。

縄文時代－佐久平に向かって張り出す丘陵地帯に遺跡が集中する傾向が認められるが、近年は台地端部及び背後に丘陵地を背負った段丘上からも遺跡が確認されている。佐久平南方の千曲川左岸地域では、蓼科山麓から北方向に延びる、幾筋もの丘陵地帯に後沢遺跡（前期）、榛名平遺跡（草創期・前期・中期・後期）、中村遺跡（前期・中期）、山法師B遺跡（中期後葉・後期）等の遺跡が発見されている。また、千曲川左岸の沖積地上では東五里田遺跡から前期・中期・後期の土器片が出土している。

弥生時代－前期の遺跡は僅かだが近年徐々に数を増している。代表的な遺跡は佐久市北部地域の湯川右岸に所在する下信濃石遺跡でまとまった資料が出土している。土器底部2点の放射性炭素年代測定では2,400 ± 30、2,440 ± 30 という年代が得られている。千曲川左岸では、東五里田遺跡から氷Ⅱ式と思われる土器が土坑内等から出土している。佐久地域では、中期後半から遺跡の数が増加する。千曲川左岸の代表的な遺跡として町田遺跡（中期）、大門下遺跡（後期）、後沢遺跡（中期・後期）、榛名平遺跡（後期）等が所在し、遺構・遺物が多数発見されている。

古墳時代－集落について、古墳時代前期は弥生時代中期後半から急激に遺跡数が増加したにもかかわらず、佐久地域における遺跡の数が減少する。集落の規模も小規模なものが多い。本遺跡周辺では宮添遺跡で土坑から土器群が発見され、北西の丘陵地緩斜面上に位置する新海坂遺跡から6軒の住居址が発見されている。遺跡数が増加するのはカマドが住居内に導入され始める中期後半（5世紀後半）前後になってからである。代表的な遺跡に中道遺跡Ⅰ（中期末～後期）、中道遺跡Ⅱ（中期）、市道遺跡（中期・後期）、市道遺跡Ⅱ・辻遺跡・儘田遺跡Ⅱ（中期・後期）等が認められる。この時代になると、弥生時代に比べ、沖積微高地に形成される集落の拡大が認められる。

次に古墳だが、千曲川左岸では、主に蓼科山麓の尾根上に単独または数基で構成される小規模な古墳群が存在する。また、汜濫源沖積地上で確認できる古墳は僅かで、桜井地籍に平馬塚古墳が所在する程度である。調査が実施された古墳は、西方の丘陵地に所在する瀧ノ峯古墳群1・2号墳がある。いずれも前方後方型の形態で、弥生時代の墳丘墓と古墳時代の古墳双方の特徴が認められる古墳時代前期（4世紀）の墳墓であることが確認されている。

奈良・平安時代－古墳時代後半の遺跡が所在する地域と同地域に所在する傾向が認められ、遺跡数も多く、沖積地上に大規模な集落が形成される。本遺跡で発見された住居址3軒は奈良時代で、近接する東五里田遺跡、東五里田遺跡Ⅱから同時代の遺構が発見されている。また、西方の道路改良に伴い行われた市道遺跡Ⅲ・辻遺跡・儘田遺跡Ⅱでは、奈良・平安時代の住居址50軒以上が調査されている。この時代は、古墳時代同様、丘陵末端部に小規模集落が形成され、沖積地の微高地に規模の拡大した集落が形成されたようである。

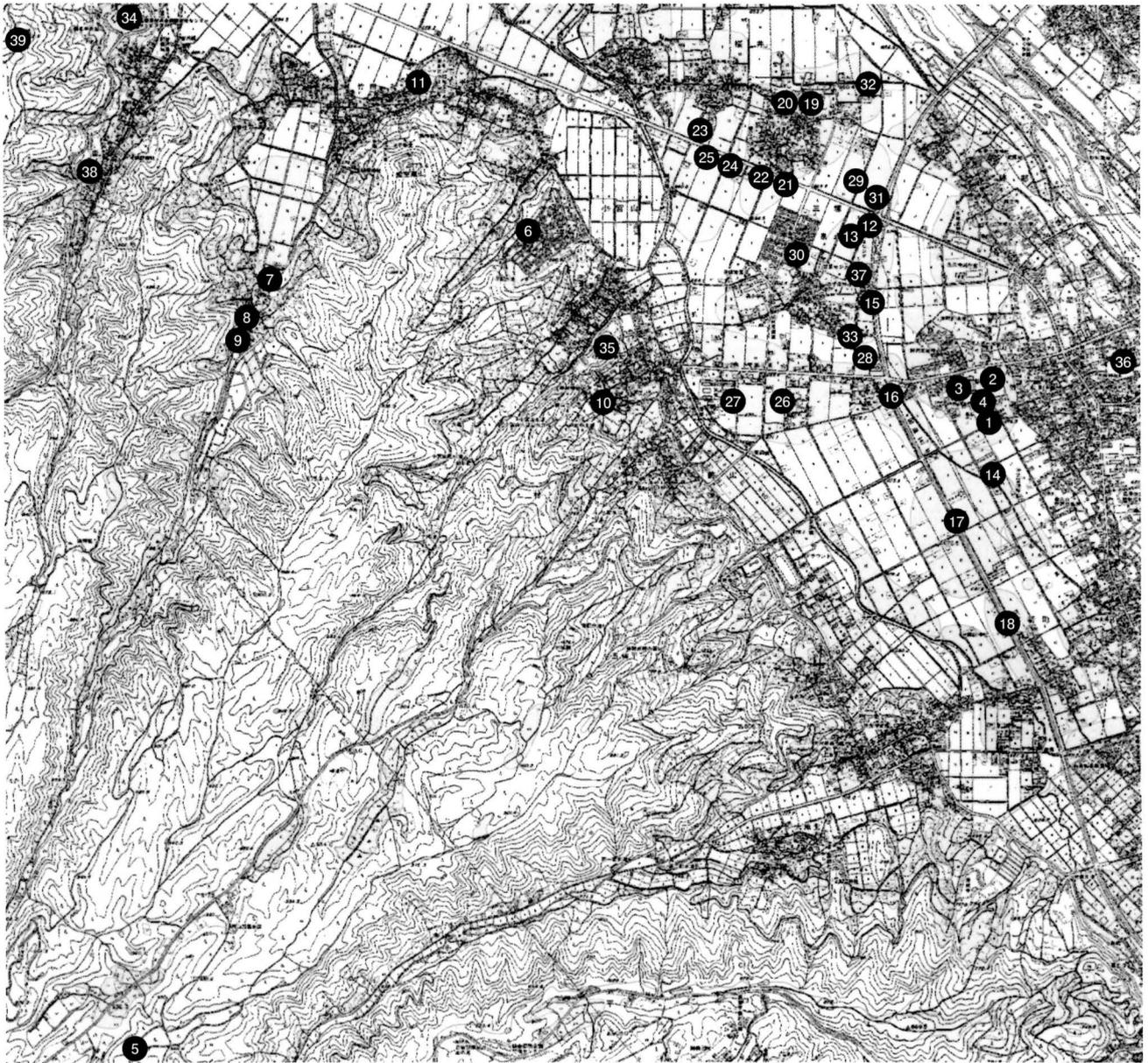
中世・近世－鎌倉時代以降、千曲川左岸地域は伴野氏が勢力を増し、居城である方形の区画を持つ野沢城跡が公園整備され、現在も周囲の土塁等を確認することができる。また、蓼科山麓から延びる丘陵地帯は前山城、前山古城など山城が築かれることが多い。

榛名平遺跡では、中世後期の土葬墓、火葬墓が多数発見されている。

No.	遺跡名	所在地	備考
1	東五里田遺跡Ⅳ	野沢字東五里田	今回調査
2	東五里田遺跡Ⅰ	野沢字東五里田	H15・16年調査 第117集
3	東五里田遺跡Ⅱ	野沢字東五里田	H18年調査 第166集
4	東五里田遺跡Ⅲ	野沢字東五里田	H19年調査 第151集
5	立科F遺跡	前山字立科	H2年調査 第5集
6	後沢遺跡	小宮山字後沢	S51・52年調査
7	中村遺跡	根岸字日向	S57年調査
8	筒村A・山法師A遺跡	根岸	H3・4年調査 第31集
9	筒村B・山法師B遺跡	根岸字日向	H3・4年調査 第29集
10	瀧の下遺跡	前山字瀧の下	H2年調査
11	西裏・竹田峯遺跡	根岸字西裏・竹田峯	S60年調査「西裏・竹田峯」
12	市道遺跡Ⅰ	三塚字市道	S49年調査
13	市道遺跡Ⅱ	三塚字市道	H10年調査 第72集
14	儘田遺跡	野沢字儘田	S45年調査
15	市道遺跡Ⅲ	跡部字市道	
16	辻遺跡	野沢字辻	
17	儘田遺跡Ⅱ	野沢字儘田	H16年調査 第148集
18	西裏遺跡	本新町字西裏	
19	平馬塚遺跡Ⅰ	桜井字平馬塚	H16年調査 第130集
20	平馬塚古墳	桜井字平馬塚	

No.	遺跡名	所在地	備考
21	市道遺跡Ⅴ	三塚	
22	平馬塚遺跡Ⅱ	桜井	
23	北裏遺跡Ⅱ	伴野	H18・19年調査 第219集
24	宮浦遺跡Ⅰ	桜井	
25	北畑遺跡Ⅲ	桜井	
26	中道遺跡	前山字中道	S46年調査 第222集
27	中道遺跡Ⅱ	前山字中道	H9・11・13年調査 第99集
28	三塚遺跡	三塚字東野沢田	S49年調査
29	三塚町田遺跡	三塚字町田	S49年調査
30	鶴田遺跡	三塚字鶴田	S50年調査
31	跡部町田遺跡	跡部字町田	S50年調査
32	上桜井北遺跡	桜井字橋詰	S52年調査「上桜井北」
33	寺添遺跡	三塚字寺添	H6年調査 第44集
34	榛名平遺跡	根岸字榛名平	H5・6年調査 第84集
35	前山城跡	小宮山字城山	
36	野沢館跡	野沢字居屋敷・北田	H13・14年調査
36	野沢館跡Ⅲ	原字屋敷	H13年調査 第100集
37	宮添遺跡	三塚字宮添	H11年調査 第129集
38	新海坂遺跡	根岸	H11年調査 年報11
39	瀧ノ峯古墳群	根岸	S61年調査 センター14集

周辺遺跡表



周辺遺跡位置図 (1:32,000)

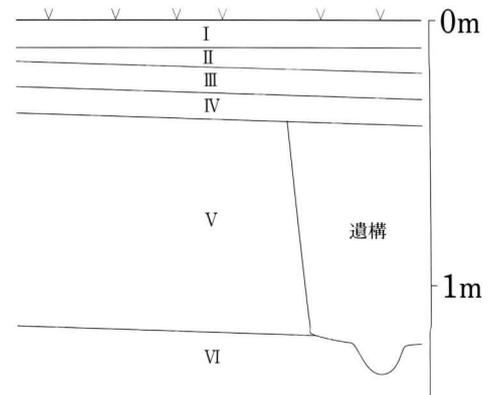
第3節 発見された遺構と遺物

遺構 竪穴住居址 - 3軒 (奈良時代) 土坑 - 3基 掘立柱建物址 - 1棟 (奈良時代) ピット - 36個
 遺物 土師器 (坏・甕) 須恵器 (坏・甕) 石器 (すり石)

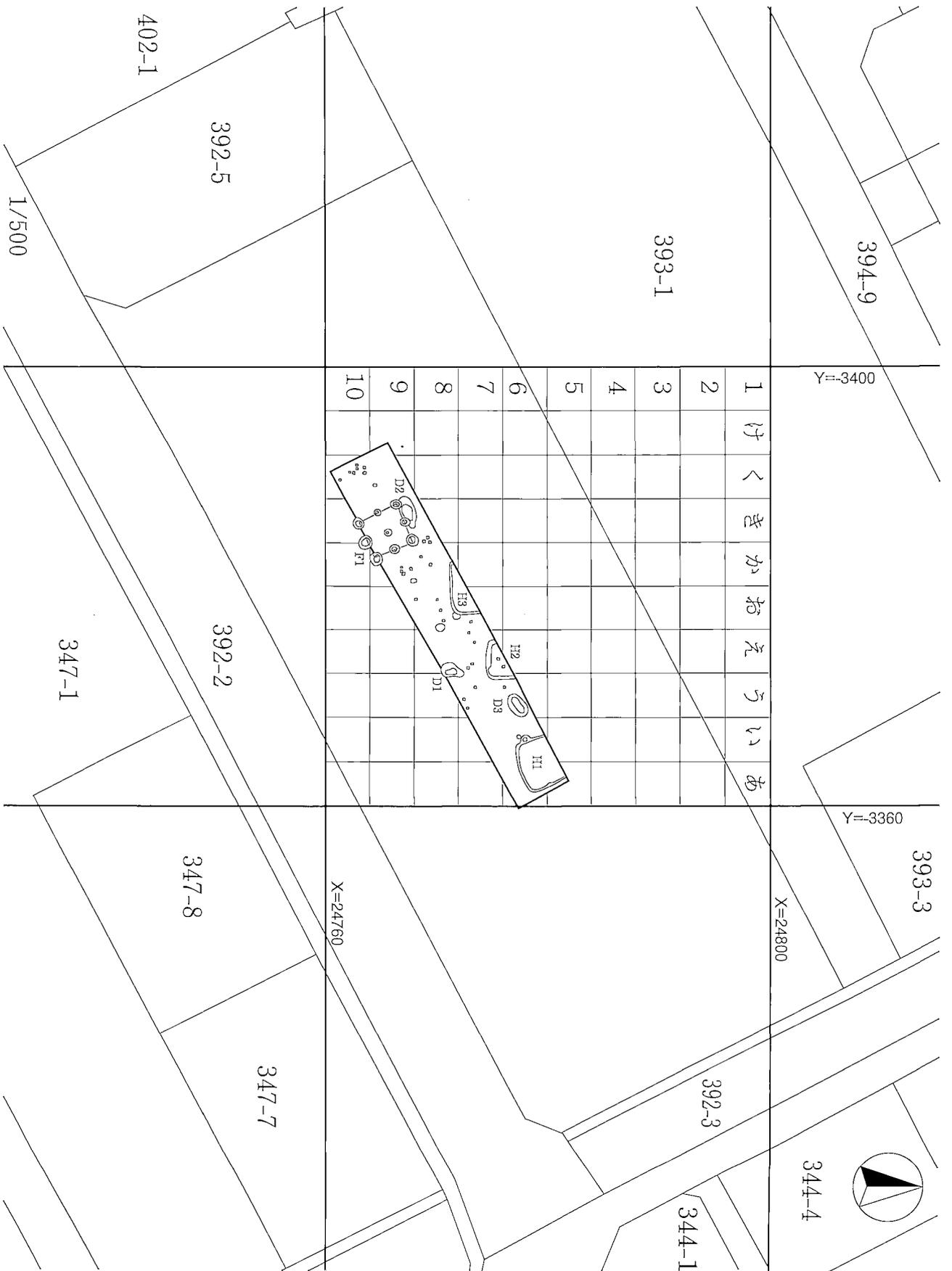
第4節 基本層序

遺跡は、佐久市南部の千曲川等の河川によって形成された氾濫源沖積地の微高地上に立地する。

- I層 層厚 10cm内外を測る水田耕作土の褐灰色土で、強粘性の粘土層である。
- II層 層厚 5～10cmを測る水田床土の黄橙色土である。
- III層 水田床土直下の旧表土が粘性化した強粘性の、にぶい黄橙色土層である。
- IV層 層厚 10cmを測る旧表土と思われる強粘性の黒褐色土層である。
- V層 シルト質の黄褐色土で、遺構検出は本層上面で行った。
- VI層 砂に小石が混じる黒褐色砂礫層である。



基本層序模式図



東五里田遺跡IV遺構配置図 (1 : 500)

第三章 遺構と遺物

第1節 竪穴住居址 (H)

H 1 号住居址

遺構は (い-6) グリッドに位置し、北側は調査区域外となる。主軸は N 20° W である。

平面形態は確認状況から方形又は長方形と考えられる。

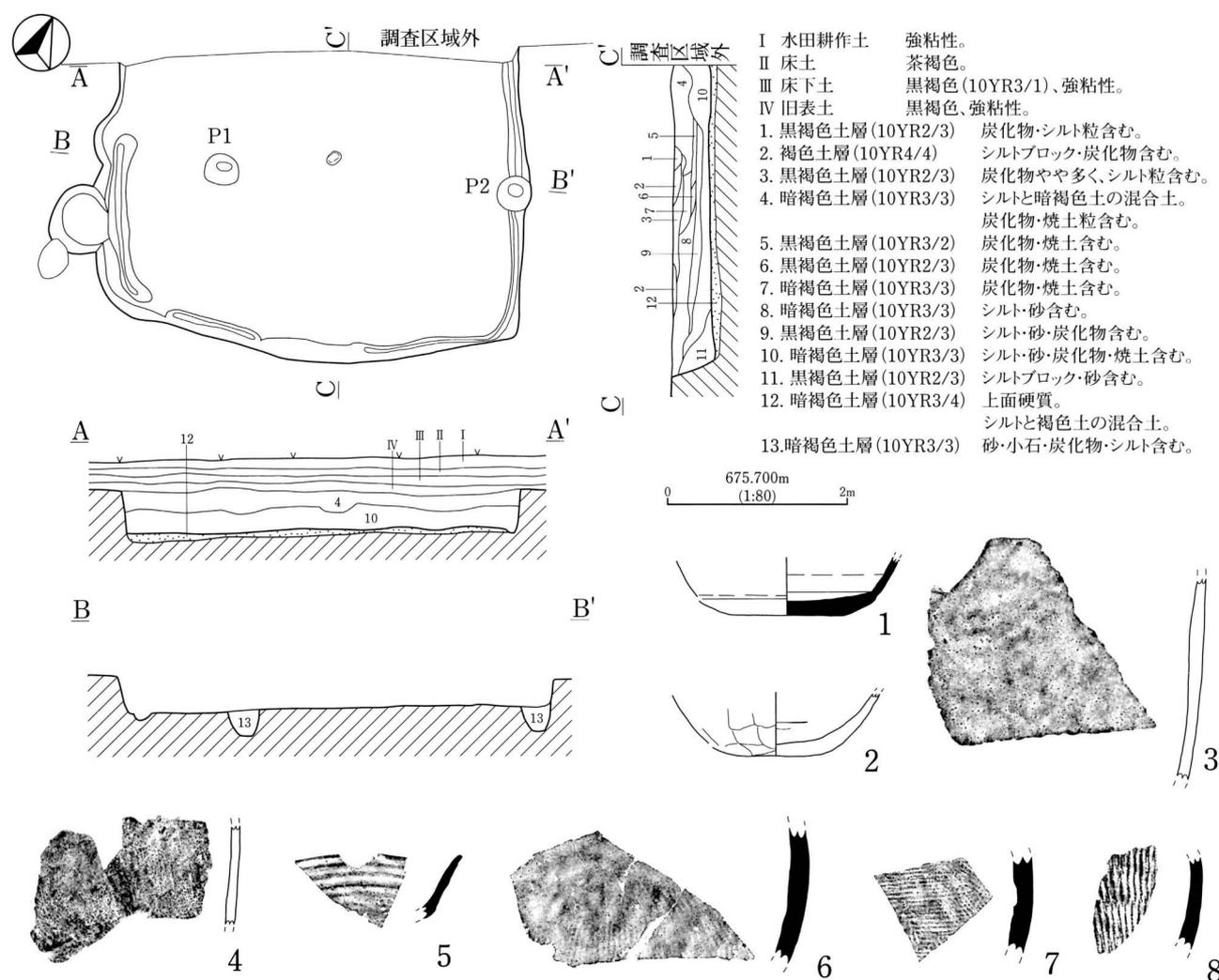
調査規模は南北 3.3m、東西 4.8m、検出面から床面までの深さは最深で 45cm を測る。

覆土はシルトを含む黒褐色土と暗褐色土主体で、南北方向の土層断面に壁際から流れ込んだ状況が認められることから自然堆積と考えられる。

構造上の特徴として、床面は土間状に硬質で、壁際には一部を除き幅 20cm、深さ 5cm 内外の壁溝が確認できた。主柱穴は変則的であるが、P 1、P 2 とと思われる。掘方は厚さ 5 ~ 10cm の強粘性土が埋め込まれている。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕が出土した。出土量は破片を含め、土師器 500 g、須恵器 314 g と少ない。

時期は、武蔵甕と思われる薄手の土師器甕片および底部ヘラ削りされた土師器坏の存在から 7 世紀代、奈良時代としたい。



H 1 号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	須恵器	坏	-	6.2	<3.2>	体部ロクロナデ 底部ヘラケズリ 焼成生焼け状態	底部100~体部破片	外面7.5YR6/6橙色
2	土師器	鉢	-	5.3	<3.5>	内面ヘラナデ 外面ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	底部~体部破片	外面7.5YR7/3にぶい橙色他
3	土師器	甕	-	-	-	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	胴部破片	外面10YR7/3にぶい黄橙色
4	土師器	甕	-	-	-	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	胴部破片	外面5YR2/2黒褐色
5	須恵器	坏	-	-	-	内外面ロクロナデ	口縁破片	外面10Y5/1灰色
6	須恵器	甕	-	-	-	外面叩き 内面当具痕	胴部破片	外面10Y6/1灰色
7	須恵器	甕	-	-	-	外面平行叩き 内面当具痕	胴部破片	外面5YR4/1褐灰色
8	須恵器	甕	-	-	-	外面平行叩き 内面当具痕	胴部破片	外面N5/0灰色

H 1 号住居址遺物観察表

H 2 号住居址

遺構は（え-7）グリッドに位置し、北側は調査区域外となる。主軸はN 3° Wである。

平面形態は確認状況から方形または長方形と考えられる。

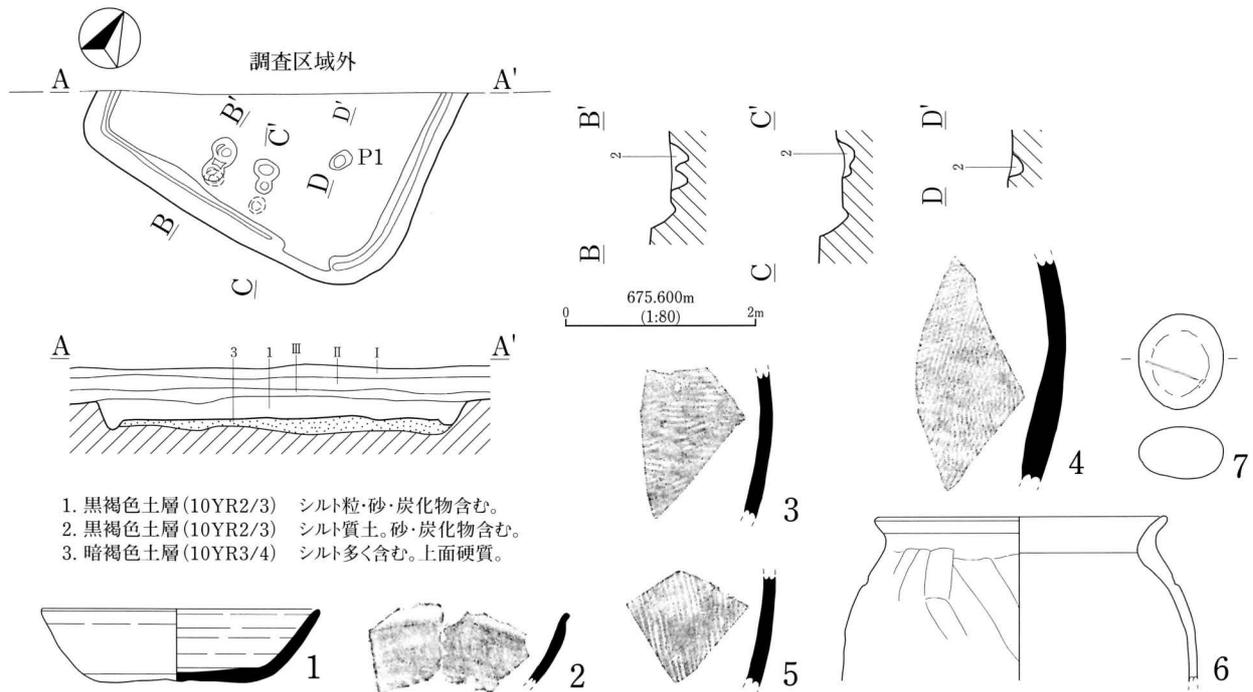
調査規模は南北 2.1m、東西 3.3m、検出面から床面までの深さは最深で 25cmを測る。

覆土は黒褐色土の単層である。

構造上の特徴として、床面は硬質の貼床が存在し、壁際には幅 15~20cm、深さ 5cm内外の壁溝が確認できた。主柱穴である P 1 に加え、南壁中央付近に対となるピットが存在し、位置的に入り口に関係すると考えられた。掘方は 6~12cmの厚みの暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏・甕、すり石が出土した。出土量は破片も含めて土師器 237 g、須恵器 400 g と少ない。

時期は底部ヘラ削りされた須恵器坏の存在から、7世紀代、奈良時代としたい。



H 2 号遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	須恵器	坏	14.4	7.8	3.9	体部内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ 小石多く含み表面粗い	70	外面7.5YR4/1褐灰色
2	須恵器	坏	-	-	-	内外面ロクロナデ	口縁破片	外面10YR7/1灰白色
3	須恵器	甕	-	-	-	外面平行叩き 内面当具痕	胴部破片	外面10YR6/1褐灰色
4	須恵器	甕	-	-	-	外面平行叩き 内面当具痕	胴部破片	外面N5/0灰色

H 2 号住居址遺物観察表 (1)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
5	須恵器	甕	-	-	-	外面平行叩き 内面当具痕	胴部破片	外面10YR7/1灰白色
6	土師器	甕	(15.1)	-	<8.6>	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁～胴部破片	外面5YR4/3にぶい赤褐色
番号	器種	器形	長さcm	幅cm	厚さcm	調整・文様	重さg	備考
7	石器	すり石	5.09	4.43	2.79	表面すり痕	83.8	

H 2号遺物観察表 (2)

H 3号住居址

遺構は（お-7）グリッドに位置し、北側は調査区域外となる。主軸はN 0° Wである。

平面形態は確認状況から、やや隅の丸い方形又は長方形と考えられる。

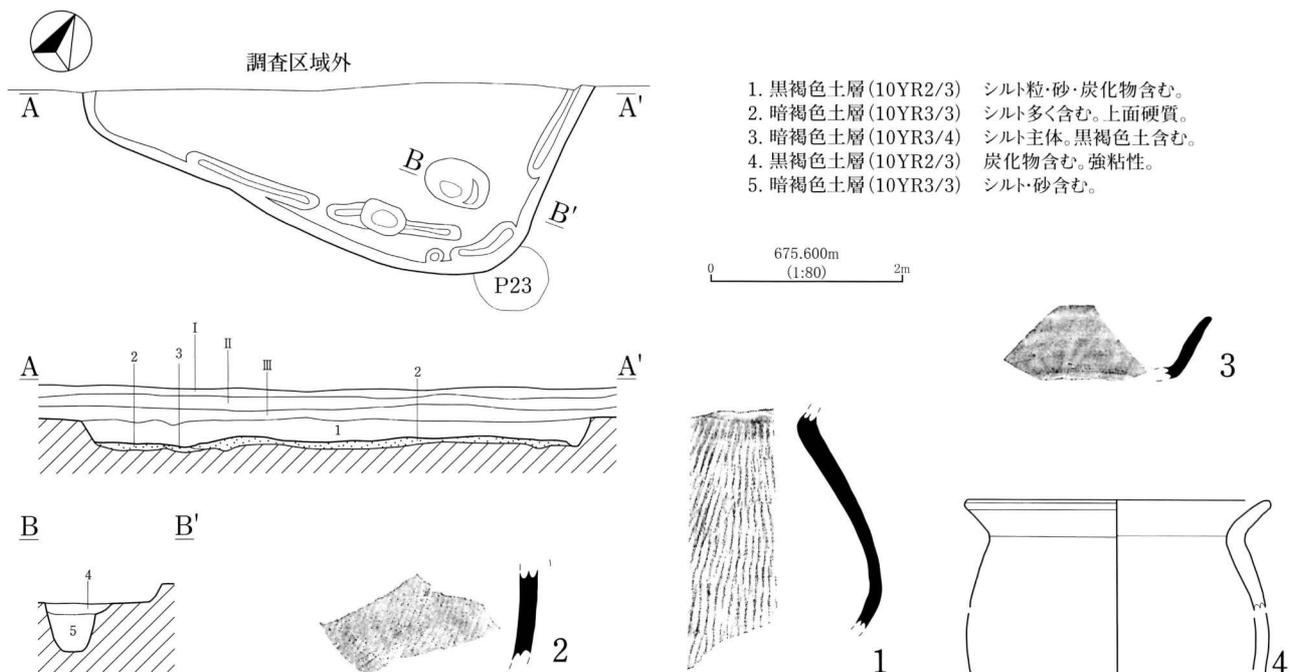
調査規模は南北 2.1m、東西 4.6m、検出面から床面までの深さは最大で 25cmを測る。

覆土は黒褐色土主体である。

構造上の特徴として、床面は硬質で、南東コーナー付近に二重の壁溝及び土坑が存在する。また、断定はできないが、外側の壁溝付近が僅かに高くなり、南壁中央付近が緩やかに屈曲することから、本住居址は建替え或いは2軒の重複となる可能性が認められた。掘方は硬質な貼床のみで、床面直下は地山となる。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏・甕が出土した。出土量は破片も含めて土師器 166 g、須恵器 259 gと少ない。

時期は器高の低い須恵器坏の存在及び破片に武蔵甕と思われる薄手の土師器甕片が含まれることから、7世紀代、奈良時代としたい。



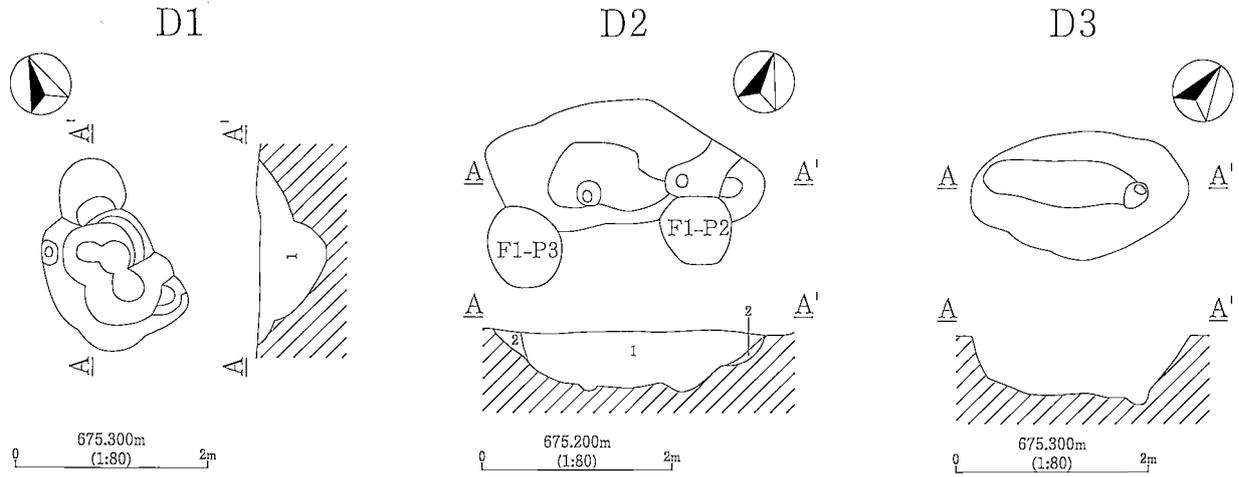
H 3号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	須恵器	甕	-	-	-	外面平行叩き 内面当具痕	肩部破片	外面N4/0灰色
2	須恵器	甕	-	-	-	外面ナデ 内面当具痕	胴部破片	外面N4/0灰色
3	須恵器	坏	-	-	-	内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	口縁～底部破片	外面2.5YR4/1赤灰色
4	土師器	甕	(15.8)	-	<9.2>	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁～胴部破片	外面7.5YR6/3にぶい橙色

H 3号住居址遺物観察表

第2節 土坑 (D)

ピットと区別するため、長径 100cm以上の掘り込みを土坑として取り扱った。（掘立柱建物址ピットは除く）D 1は平面不整形で、ピットの集合体のような状態を示していた。D 2・3は形状から断定はできないが陥穴である可能性が考えられる。



1. 黒褐色土層(10YR2/3) シルト・炭化物含む。

1. 黒褐色土層(10YR2/3) シルトブロック・炭化物含む。
2. 暗褐色土層(10YR3/3) シルトやや多く含む。

D1・2・3号土坑実測図

遺構名	形態	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	位置	備考
D1	不整形	205	124	68	え-8	
D2	不整形	290	128	65	き-9	F1号掘立柱建物址に切られる。
D3	楕円形	230	135	68	う-6	

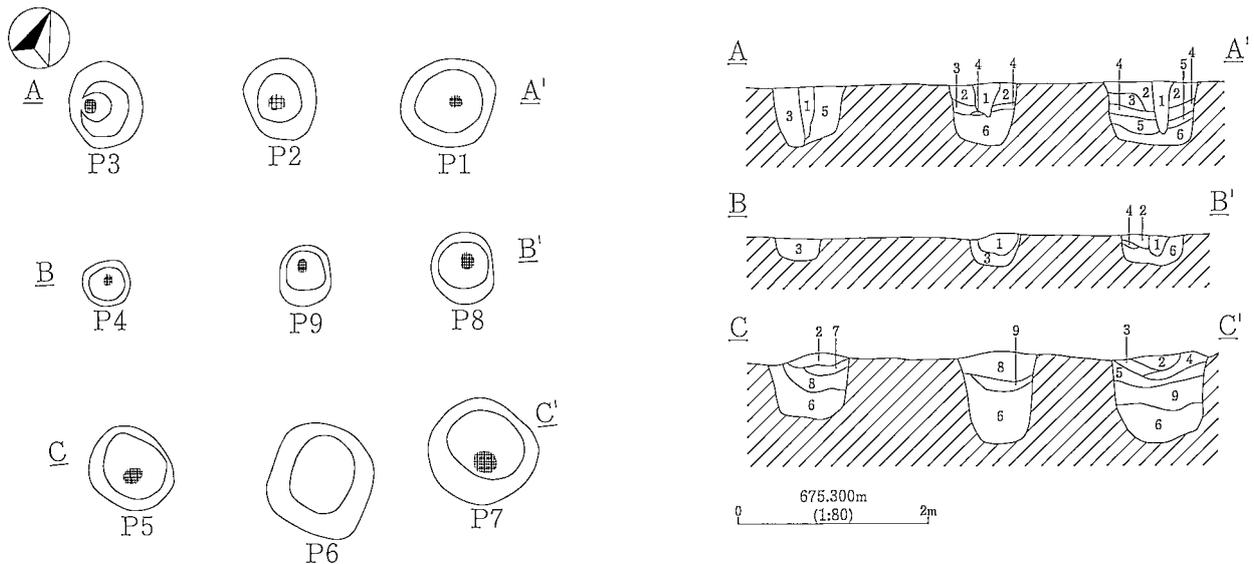
土坑観察表

第3節 掘立柱建物址(F)

遺構は(き-9)付近に位置し、D2を切る。南北2間、東西2間の総柱で、ピット9個が確認できた。ピット形状は円形で、径50～130cm、深さは26～100cmを測る。南北の両端に位置するP1・2・3、P5・6・7は、いずれのピットも大型の掘方で、中央のP4・8・9は比較的浅く小型の掘方を持つ。また、底部には、柱が接していた部分に円形の硬質面が存在した。

遺物は、P7・9から須恵器片、P8から土師器片が出土した。

時期は、周辺の住居址が奈良時代に限定され、僅かだが土師器・須恵器が出土したことから奈良時代としたい。



1. 暗褐色土層(7.5YR3/3) 粘土質。シルト粒含む。
2. にぶい黄褐色土層(10YR4/3) シルトブロック多く、炭化物含む。
3. 黒褐色土層(10YR2/2) 粘土含む。強粘性。
4. 暗褐色土層(10YR3/4) 炭化物含む。強粘性。

5. 黒褐色土層(10YR3/2) シルトブロックやや多く、砂含む。
6. 黒褐色土層(10YR2/2) 炭化物・砂含む。強粘性。
7. 暗褐色土層(10YR3/4) シルトブロック多く含む。
8. 黒褐色土層(10YR2/3) 炭化物・シルトブロック含む。
9. にぶい黄褐色土層(10YR4/3) シルト主体。黒褐色土含む。やや粘性。

F1号掘立柱建物址実測図

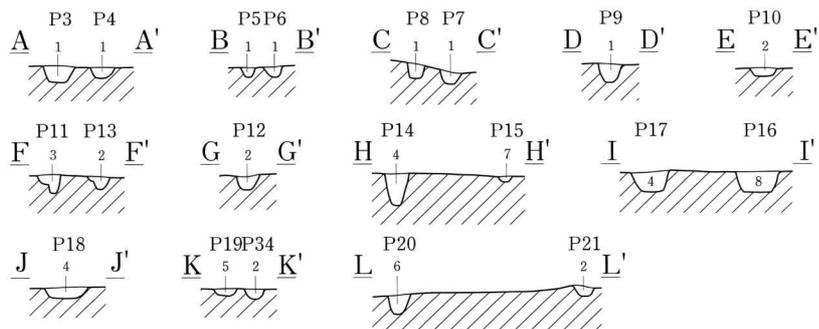
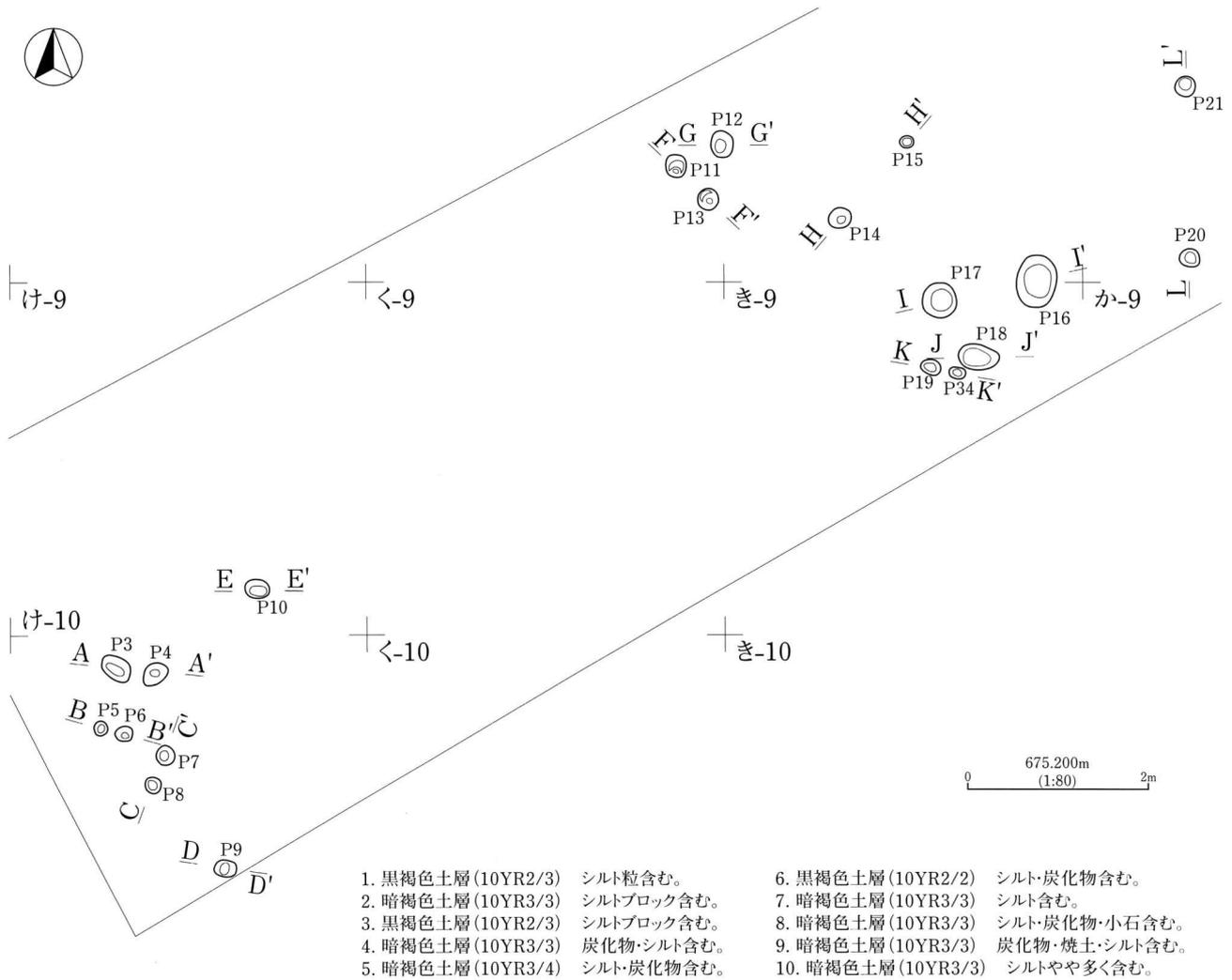
遺構名	番号	形態	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	位置
F1	P1	円形	108	94	67	き-9
	P2	円形	84	76	60	き-9
	P3	円形	88	76	62	き-9
	P4	円形	48	46	26	き-9
	P5	円形	92	84	73	き-10

遺構名	番号	形態	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	位置
F1	P6	円形	116	104	92	き-10
	P7	円形	93	92	86	か-9
	P8	円形	76	64	36	き-9
	P9	円形	64	52	37	き-9

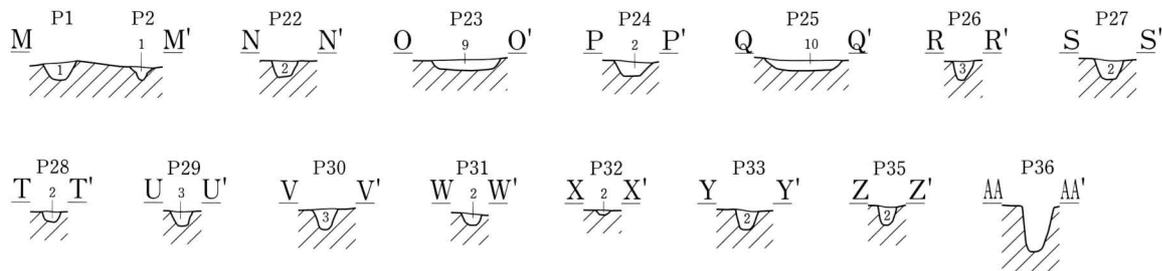
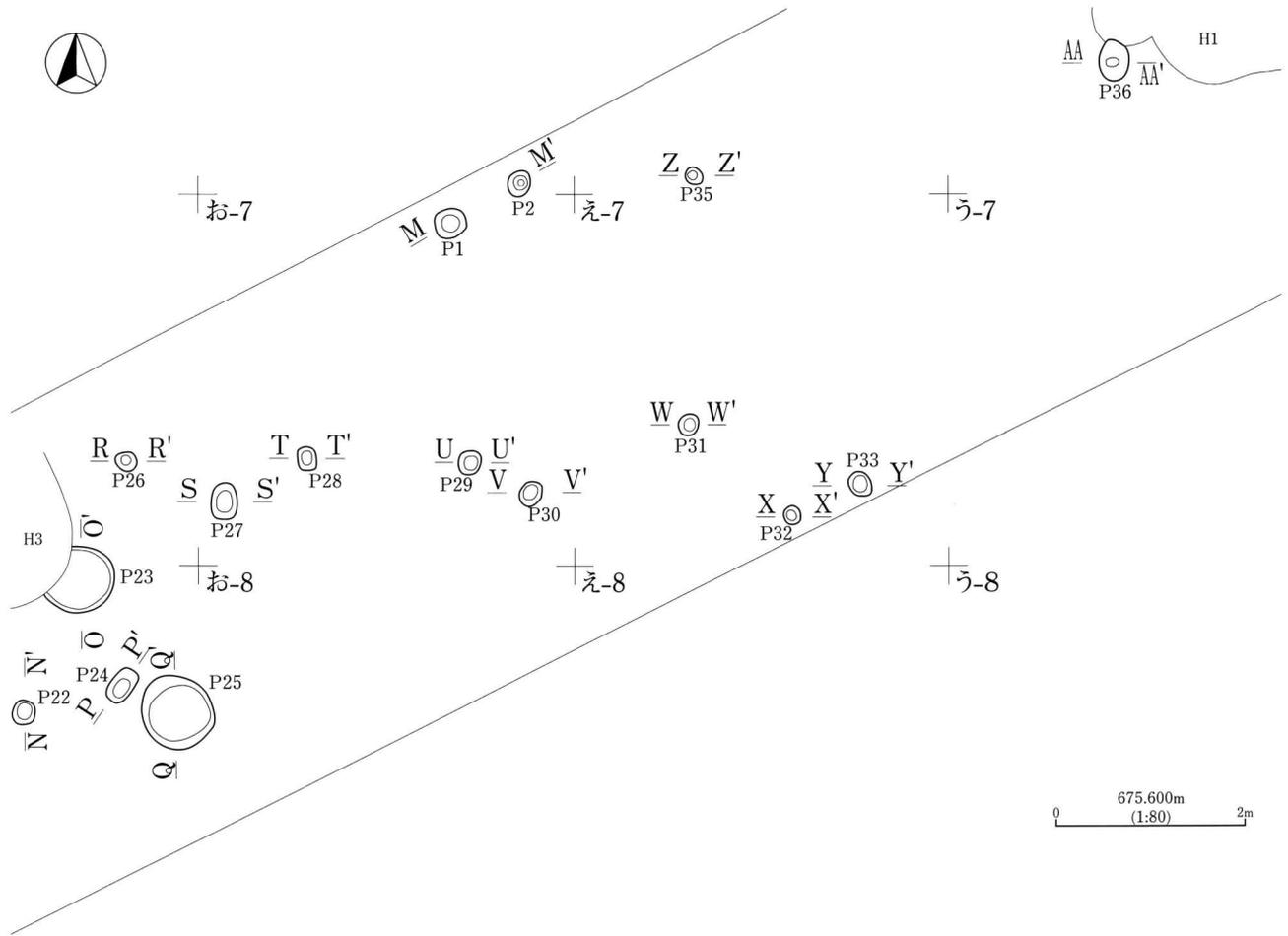
F 1号掘立柱建物址ピット観察表

第5節 ピット (P)

土坑と区別するために、直径100cmに満たない単独の掘り込みで、掘立柱建物址のような規則的な配列を持たないものをピットとして取り扱った。



ピット遺構実測図 (1)



ピット実測図 (2)

遺構名	形態	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	位置
P1	円形	35	35	20	え-7
P2	円形	29	24	14	え-6
P3	楕円形	37	26	18	く-10
P4	楕円形	31	25	12	く-10
P5	円形	17	16	10	く-10
P6	円形	20	17	12	く-10
P7	円形	22	21	15	く-10
P8	円形	20	18	17	く-10
P9	楕円形	25	19	20	く-10
P10	楕円形	28	21	9	く-9
P11	円形	26	22	20	き-8
P12	円形	30	25	15	き-8
P13	円形	24	24	14	き-8
P14	円形	26	23	34	か-8
P15	円形	16	12	6	か-8
P16	楕円形	59	45	22	か-9
P17	円形	40	39	23	か-9
P18	楕円形	46	29	12	か-9

遺構名	形態	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	位置
P19	楕円形	22	18	8	か-9
P20	円形	24	21	22	お-8
P21	円形	23	22	12	お-8
P22	円形	28	24	17	お-8
P23	円形	74	<54>	12	お-8
P24	楕円形	40	24	17	お-8
P25	円形	82	75	12	お-8
P26	円形	23	21	20	お-7
P27	楕円形	39	27	23	え-7
P28	楕円形	26	20	12	え-7
P29	円形	25	24	16	え-7
P30	円形	28	24	11	え-7
P31	円形	25	21	14	う-7
P32	円形	20	18	5	う-7
P33	円形	29	24	22	う-7
P34	楕円形	19	13	11	か-9
P35	円形	21	17	21	う-6
P36	楕円形	44	32	48	い-6

ピット観察表



調査区全景（東から）



調査区全景（南西から）



試掘調査前状況（南東から）



試掘調査風景（東から）



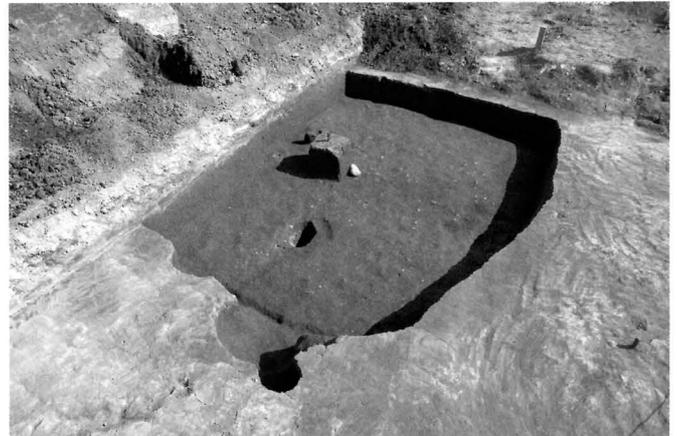
調査開始前状況（北東から）



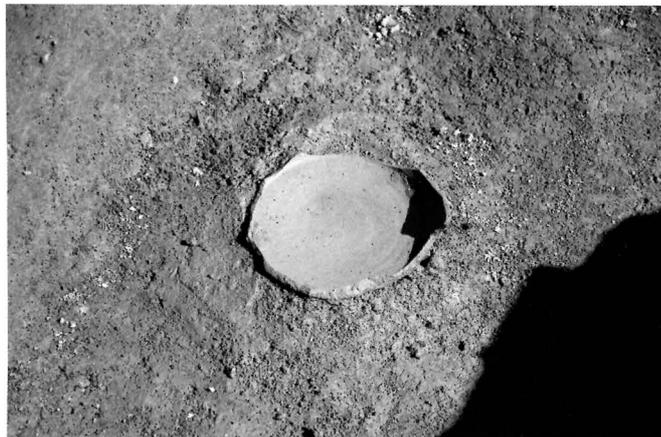
調査風景（北東から）



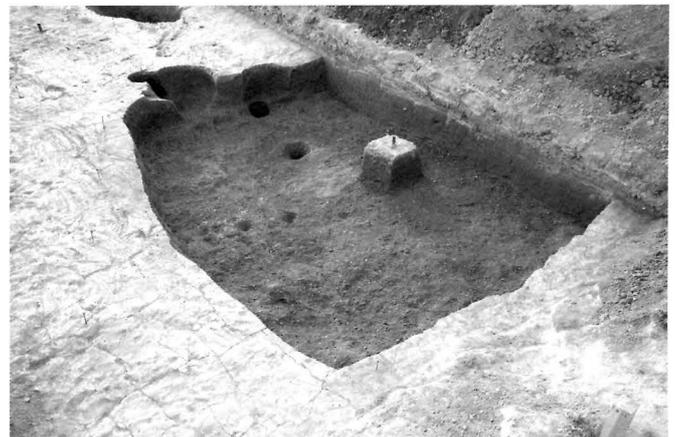
調査風景（北東から）



H 1 号住居址全景（南西から）



H 1 号住居址遺物出土状況



H 1 号住居址掘方全景（南東から）



H 2号住居址全景（西から）



H 2号住居址掘方全景（西から）



H 3号住居址全景（西から）



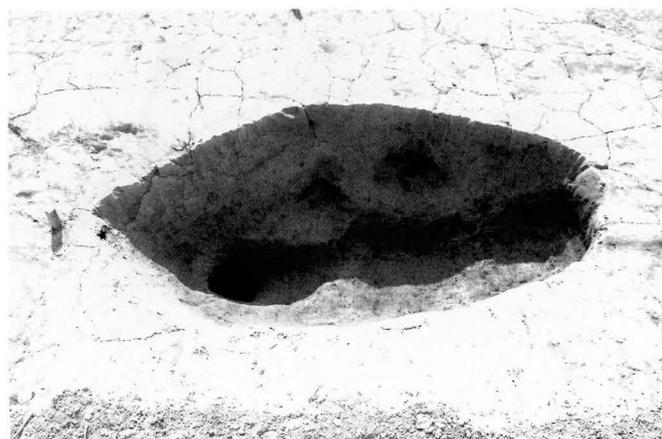
H 3号住居址掘方全景（西から）



D 1号土坑全景（北西から）



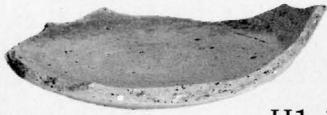
D 2号土坑全景（北から）



D 3号土坑全景（北西から）



F 1号掘立柱建物址全景（北西から）



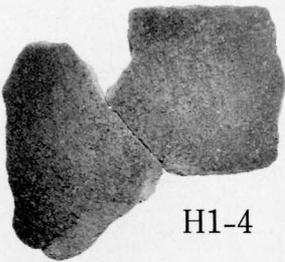
H1-1



H1-2



H1-3



H1-4



H1-5



H1-6



H1-7



H1-8



H2-1



H2-2



H2-3



H2-4



H2-5



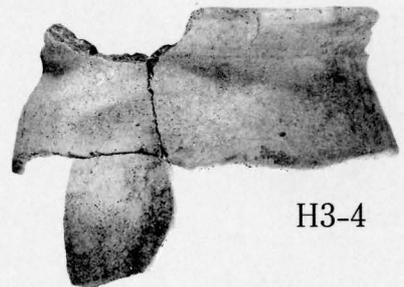
H2-7



H2-6



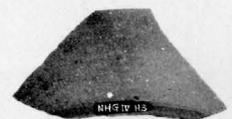
H3-1



H3-4



H3-2



H3-3

ふりがな	ひがしごりたいせきよん							
書名	東五里田遺跡Ⅳ							
副書名	—							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第232集							
編著者名	上原 学							
編集機関	佐久市教育委員会文化財課							
所在地	長野県佐久市志賀5953 TEL 0267-68-7321 FAX 0267-68-7323							
発行年月日	平成 27年(2015)2月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
ひがしごりた いせきよん	さくし のぞわ	20217	423	36°13'24"	138°27'45"	20140922 ～ 20140929	180	ラベンダー コート 野沢北 宅地造成
東五里田遺跡Ⅳ	佐久市野沢 392-1							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
東五里田遺跡Ⅳ	集落	奈良時代	竪穴住居址3軒、 土坑3基、 掘立柱建物址1棟、 ピット36個		土器(土師器・須恵器)、 石器(すり石)		奈良時代集落等の一部を 発見し、調査を実施した。	
要約	佐久市南部の千曲川左岸に位置し、千曲川及び周辺河川によって形成された沖積微高地に立地する集落の一部である。調査された住居址3軒は、いずれも出土遺物の特徴から奈良時代と考えられた。北方に近接する東五里田遺跡Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいても、ほぼ同時期と考えられる住居址が主体の遺構となっており、25軒以上が調査されている。今回の発見によって、奈良時代集落の南限が更に広まることが確認された。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第232集

東五里田遺跡Ⅳ(NHGⅣ)

平成27年(2015)2月

編集・発行 長野県佐久市教育委員会
〒385-8501 長野県佐久市中込3056
文化財課
〒385-0006 長野県佐久市志賀5953
電話 0267-68-7321

印刷所 株式会社 佐久印刷所